

決算説明会

2014年3月期第2四半期

2013年11月1日
ミネベア株式会社

1. 業績の説明

2. 経営方針と事業戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

計画を大幅に上回る増収、増益を達成

(百万円)	2013年3月期	2014年3月期	前年同期比 伸び率	2014年3月期 上半期	
	上半期	上半期		7月修正予想	達成率
売上高	139,101	180,799	+30.0%	178,500	101.3%
営業利益	7,700	13,003	+68.9%	10,000	130.0%
経常利益	6,942	11,751	+69.3%	8,800	133.5%
純利益	3,720	8,772	2.4倍	6,500	135.0%
一株当たり 純利益(円)	9.94	23.52	2.4倍	17.43	134.9%

為替レート	13/3期上半期	14/3期上半期
US\$	79.73円	98.03円
ユーロ	101.27円	128.29円
タイバーツ	2.55円	3.21円
人民元	12.56円	15.93円

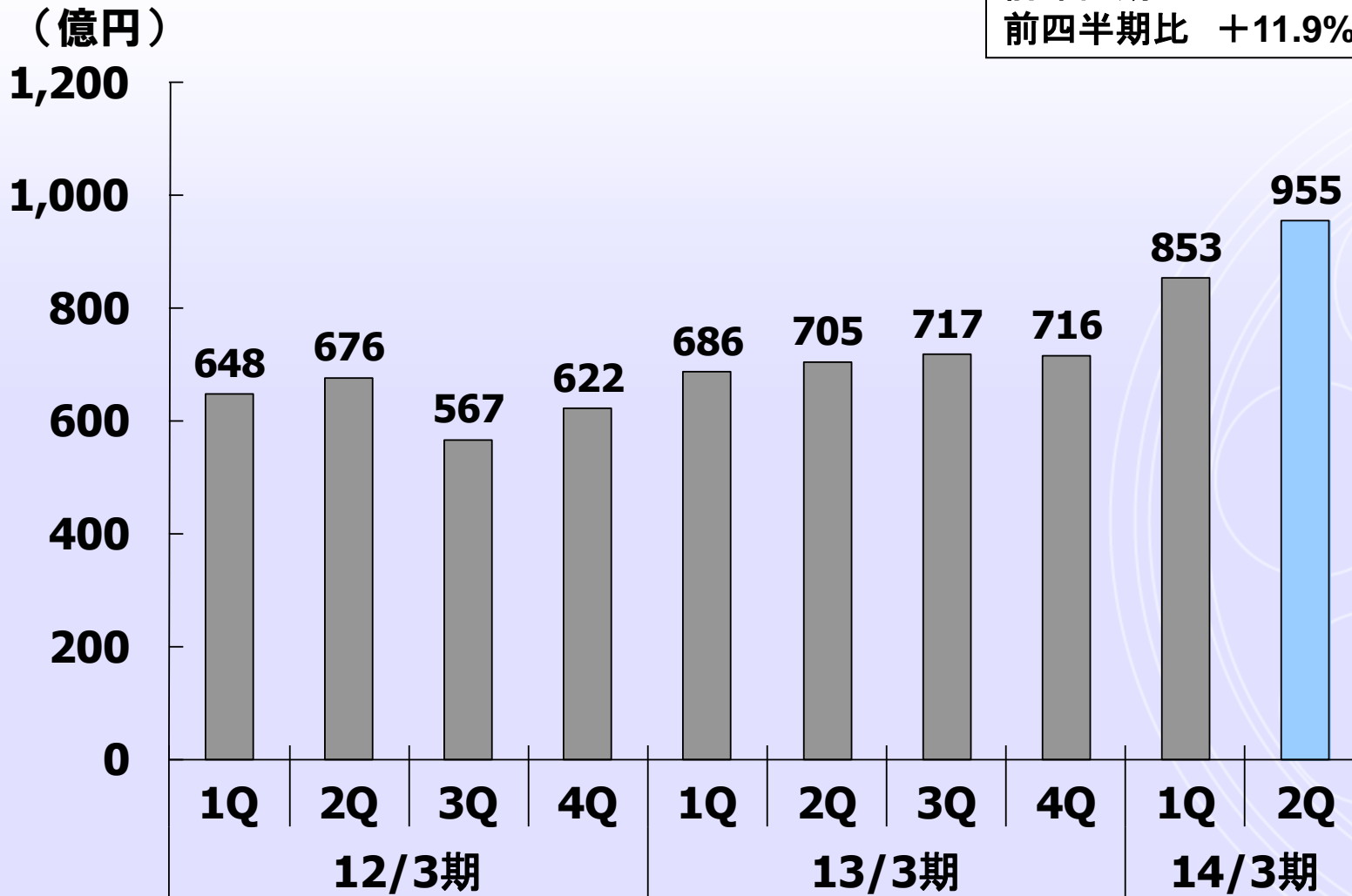
14/3期上半期 想定
98.86円
128.48円
3.25円
16.02円

四半期ベースでは過去最高の営業利益、経常利益を更新

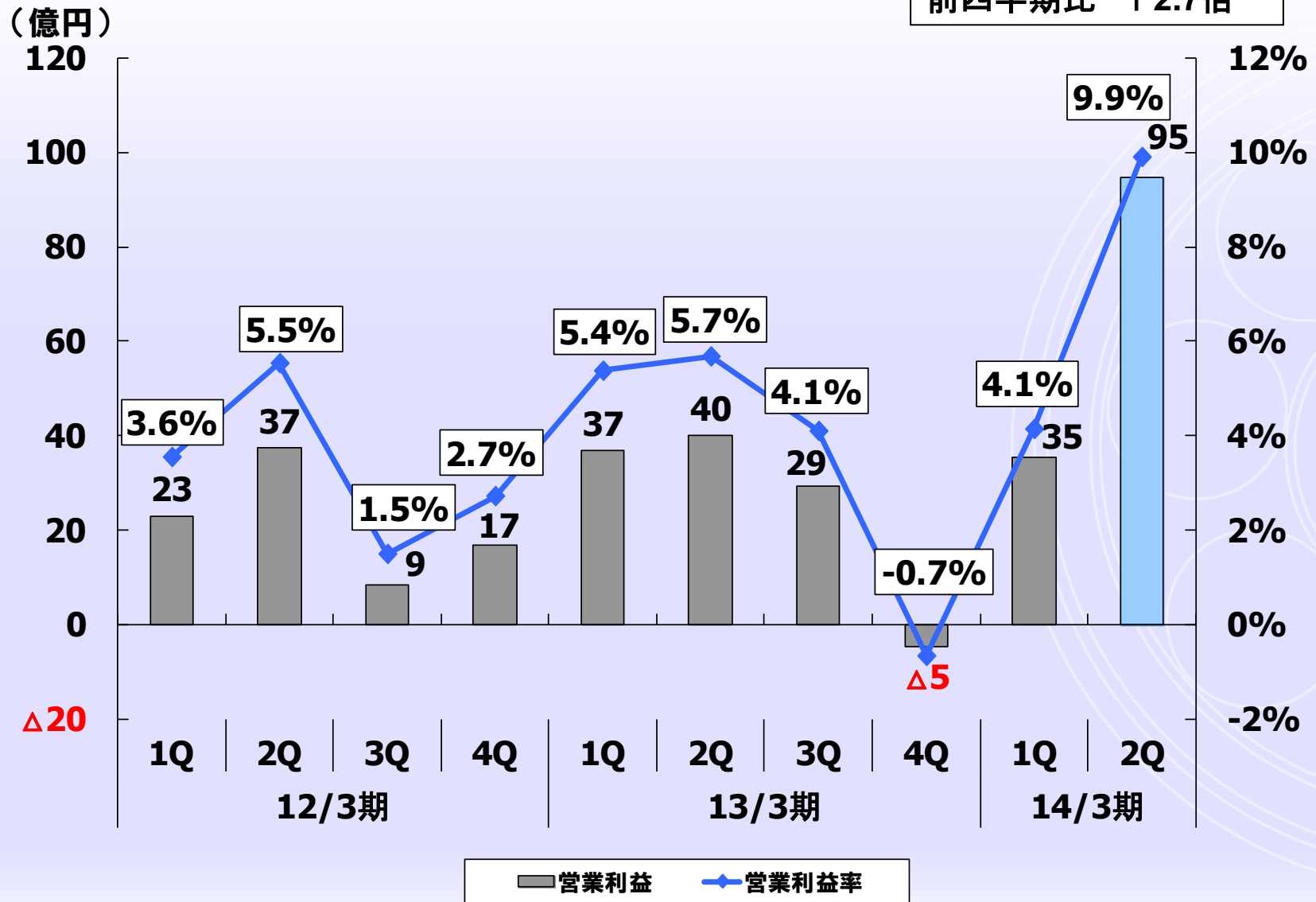
(百万円)	2013年3月期	2014年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	70,480	85,317	95,482	+35.5%	+11.9%
営業利益	4,007	3,538	9,465	2.4倍	2.7倍
経常利益	3,573	3,068	8,682	2.4倍	2.8倍
四半期純利益	2,002	2,852	5,920	3.0倍	2.1倍
一株当たり 四半期純利益(円)	5.37	7.65	15.86	3.0倍	2.1倍

為替レート	13/3期2Q	14/3期1Q	14/3期2Q
US\$	78.69円	97.72円	98.34円
ユーロ	97.65円	126.96円	129.61円
タイバーツ	2.49円	3.30円	3.12円
人民元	12.36円	15.84円	16.02円

前年同期比 +35.5%
前四半期比 +11.9%



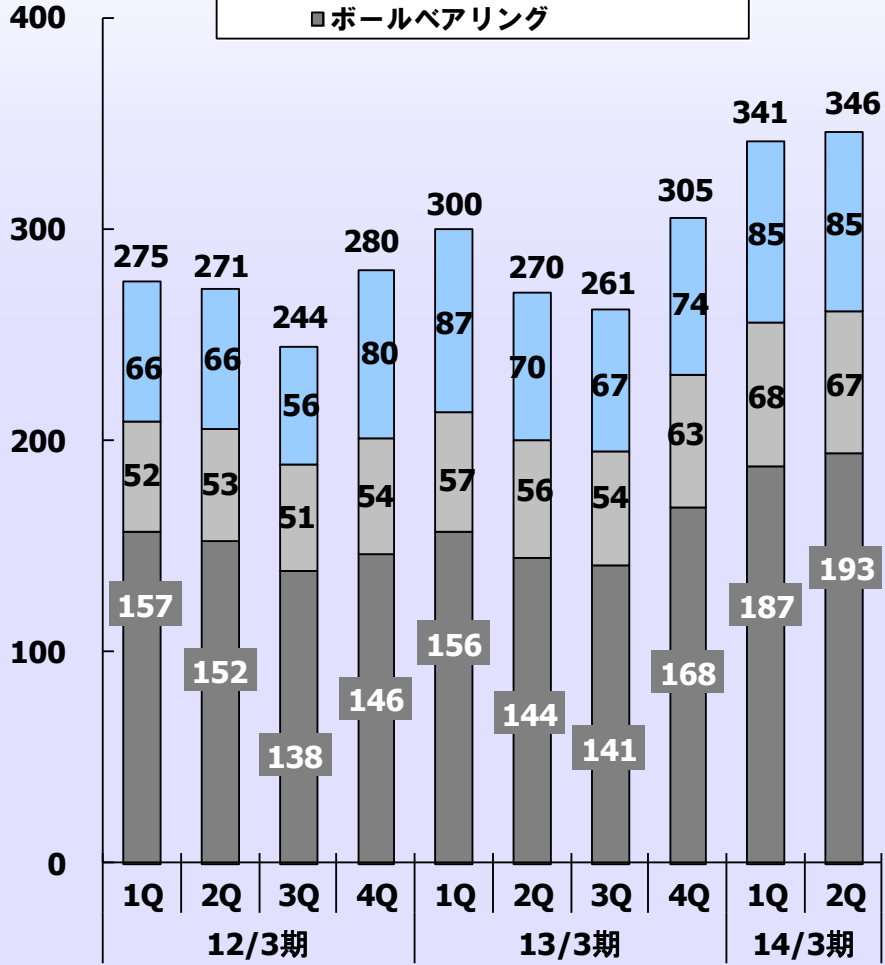
前年同期比 +2.4倍
前四半期比 +2.7倍



売上高

(億円)

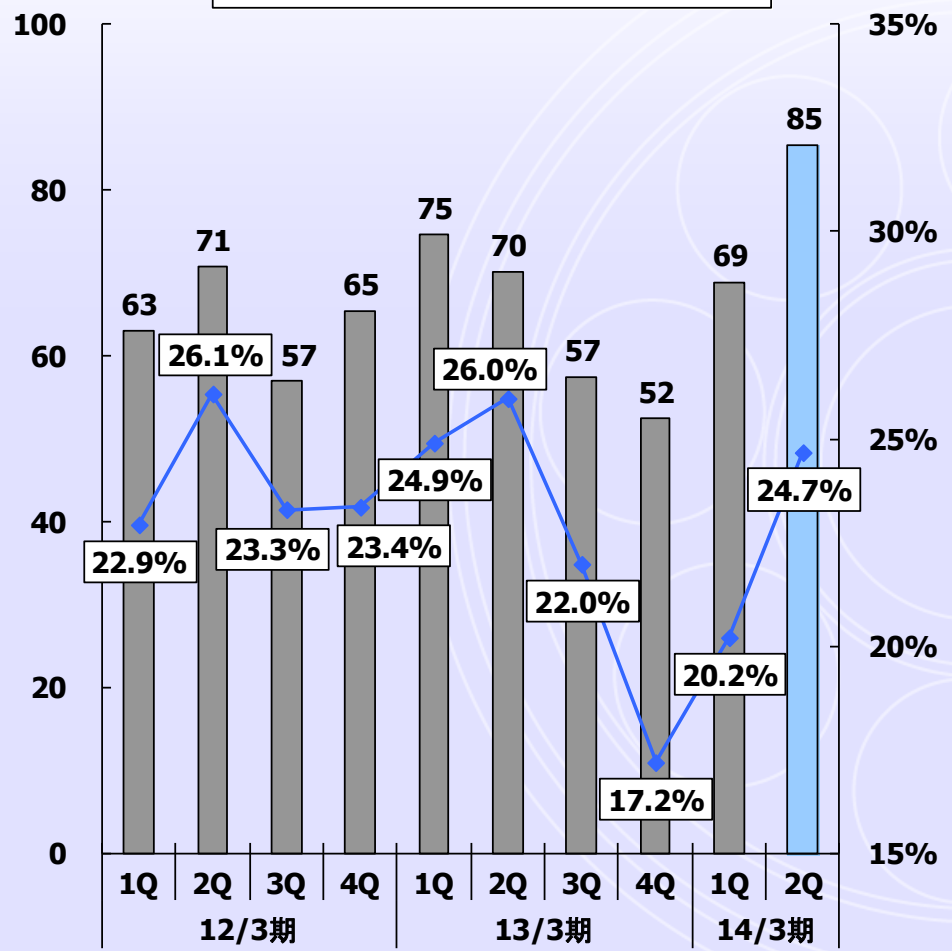
- ピボットアッセンブリー
- ロッドエンド・ファスナー
- ボールベアリング



営業利益

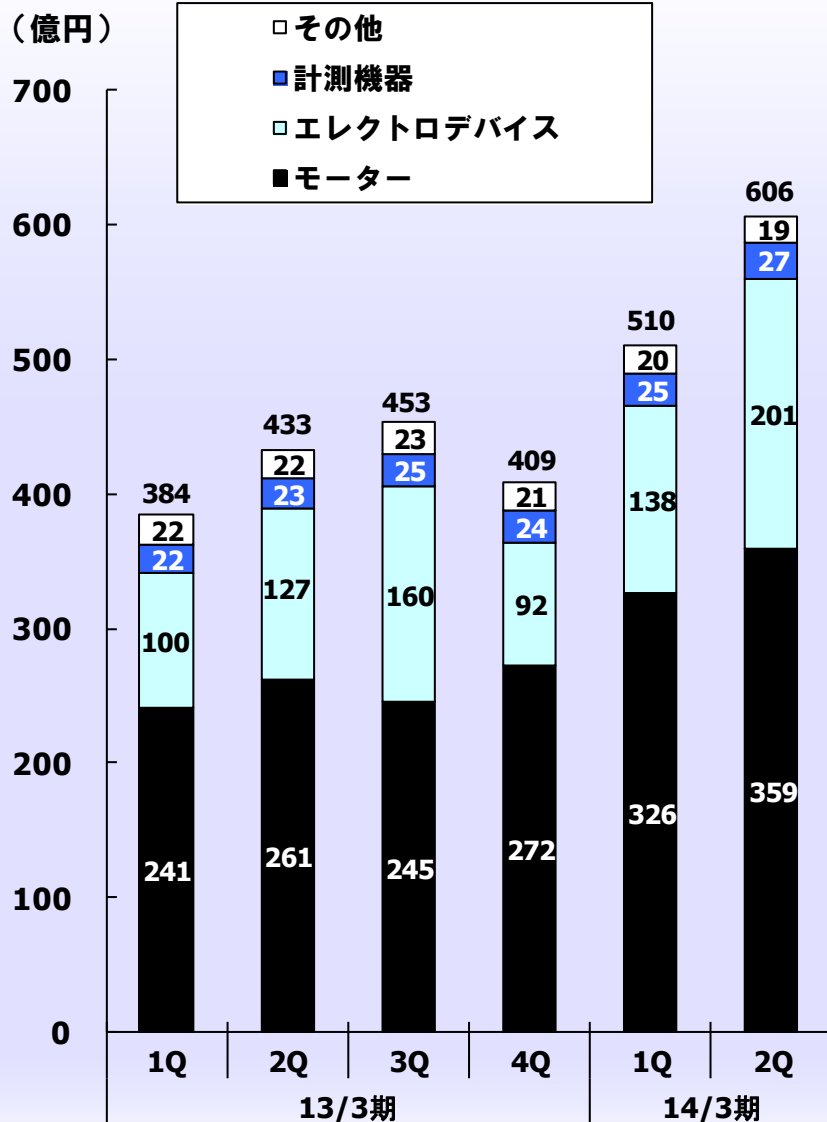
(億円)

- 営業利益
- ◆ 営業利益率

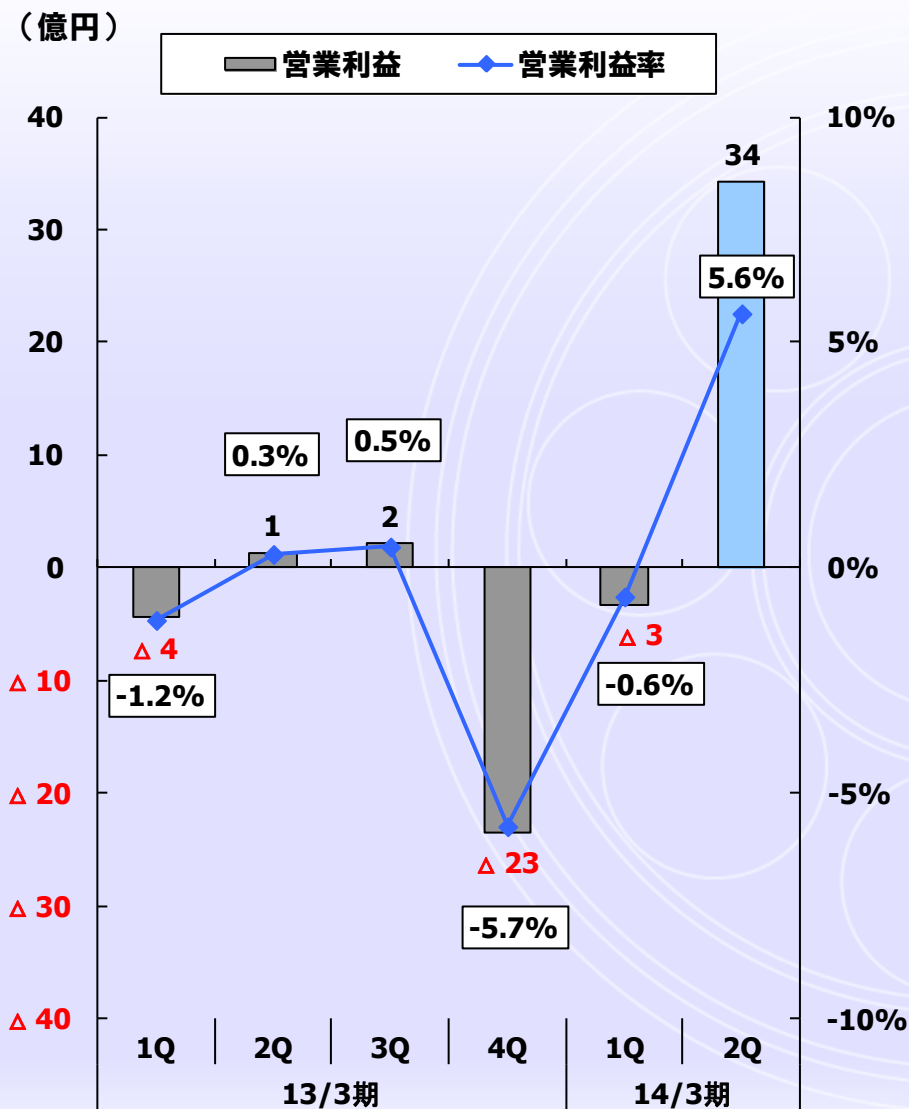


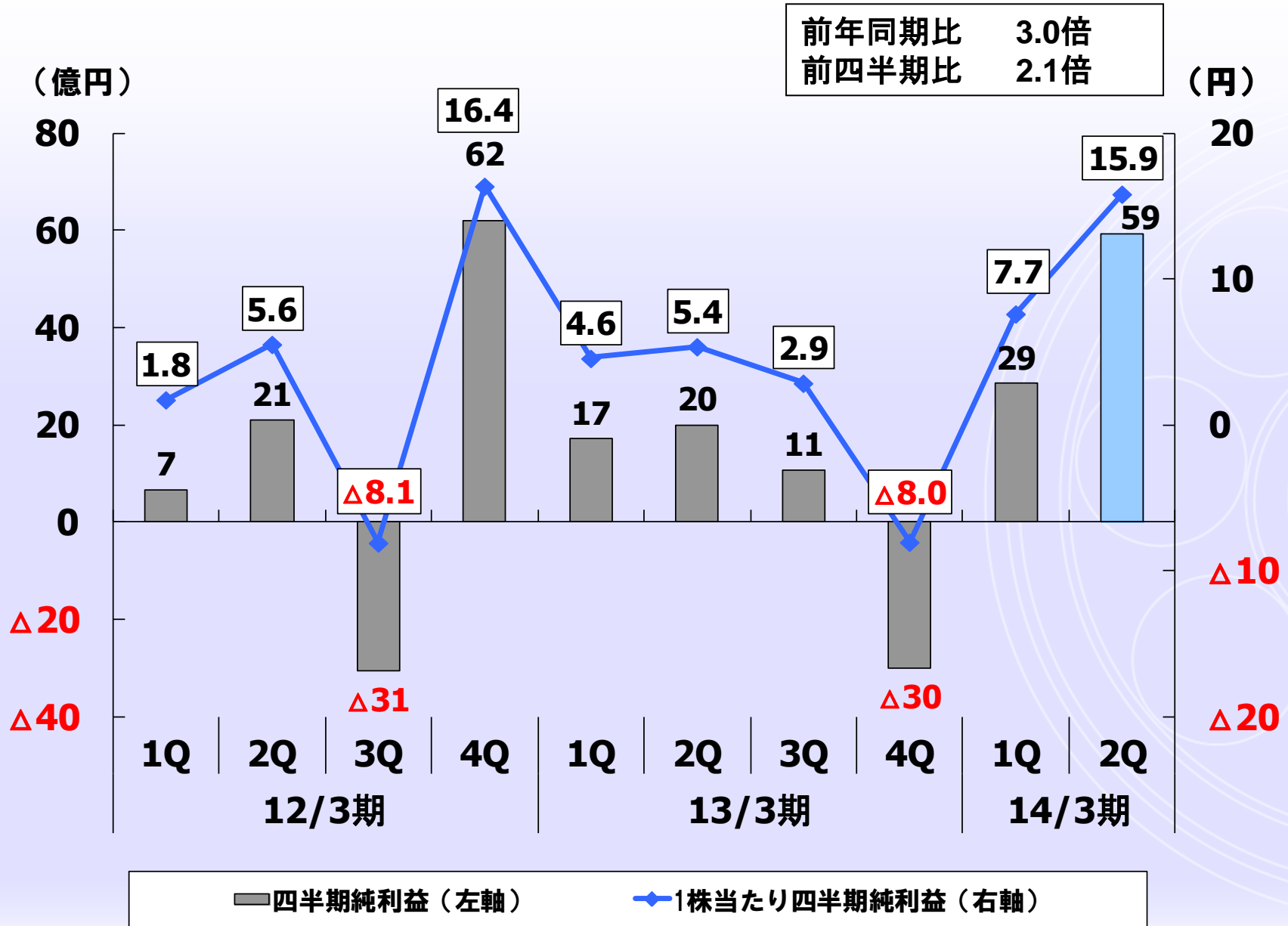
※新セグメントによる13年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

売上高

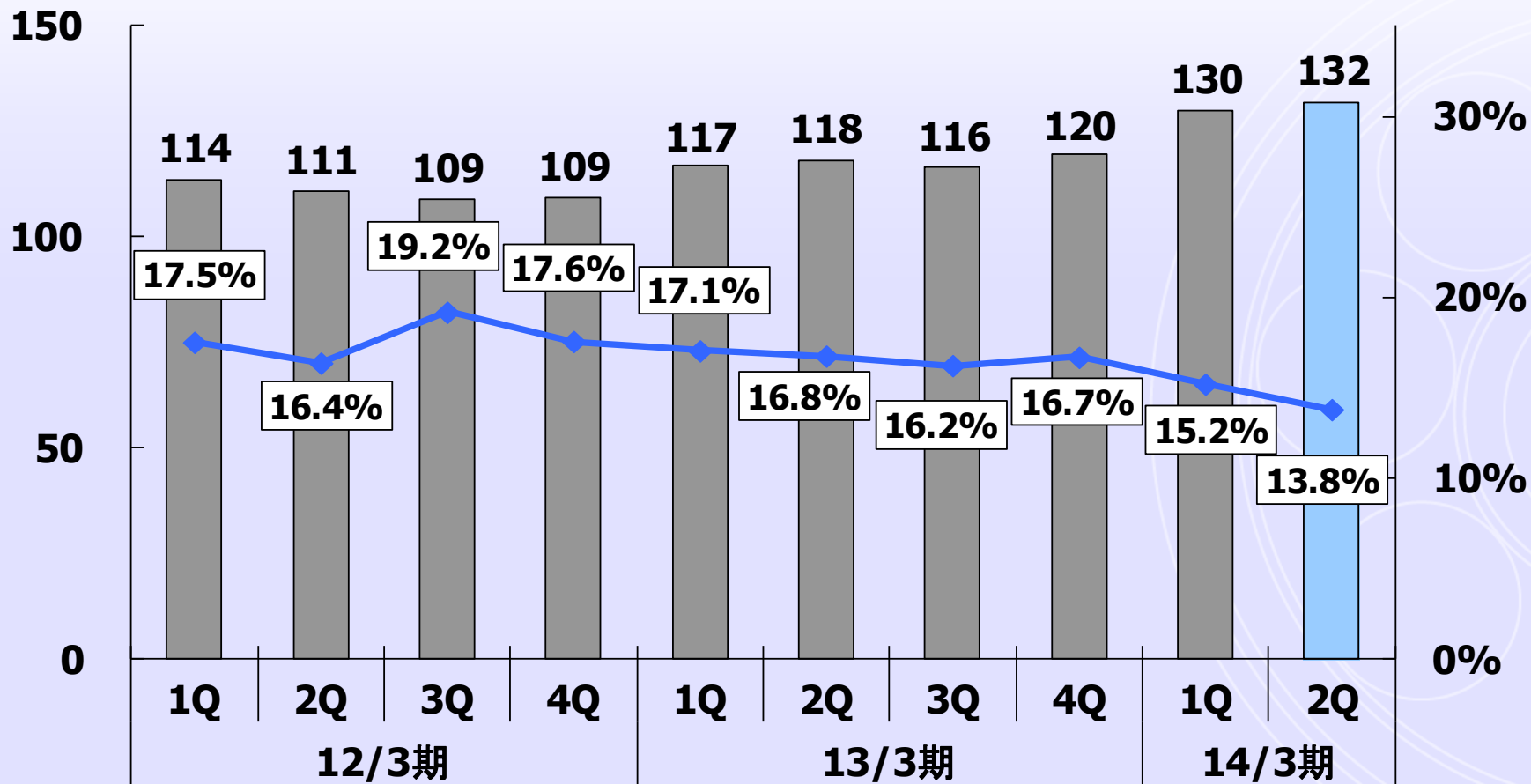


営業利益

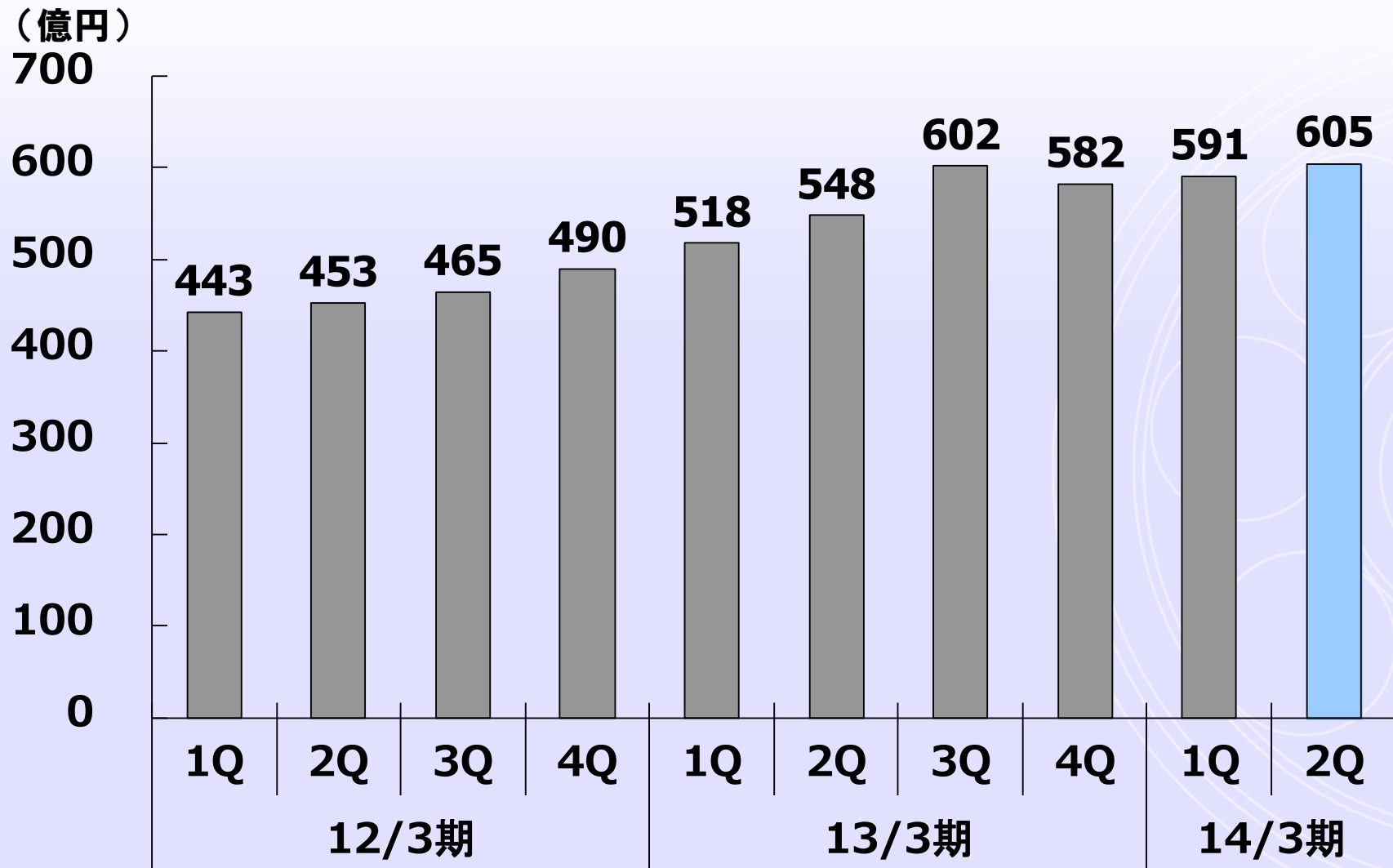


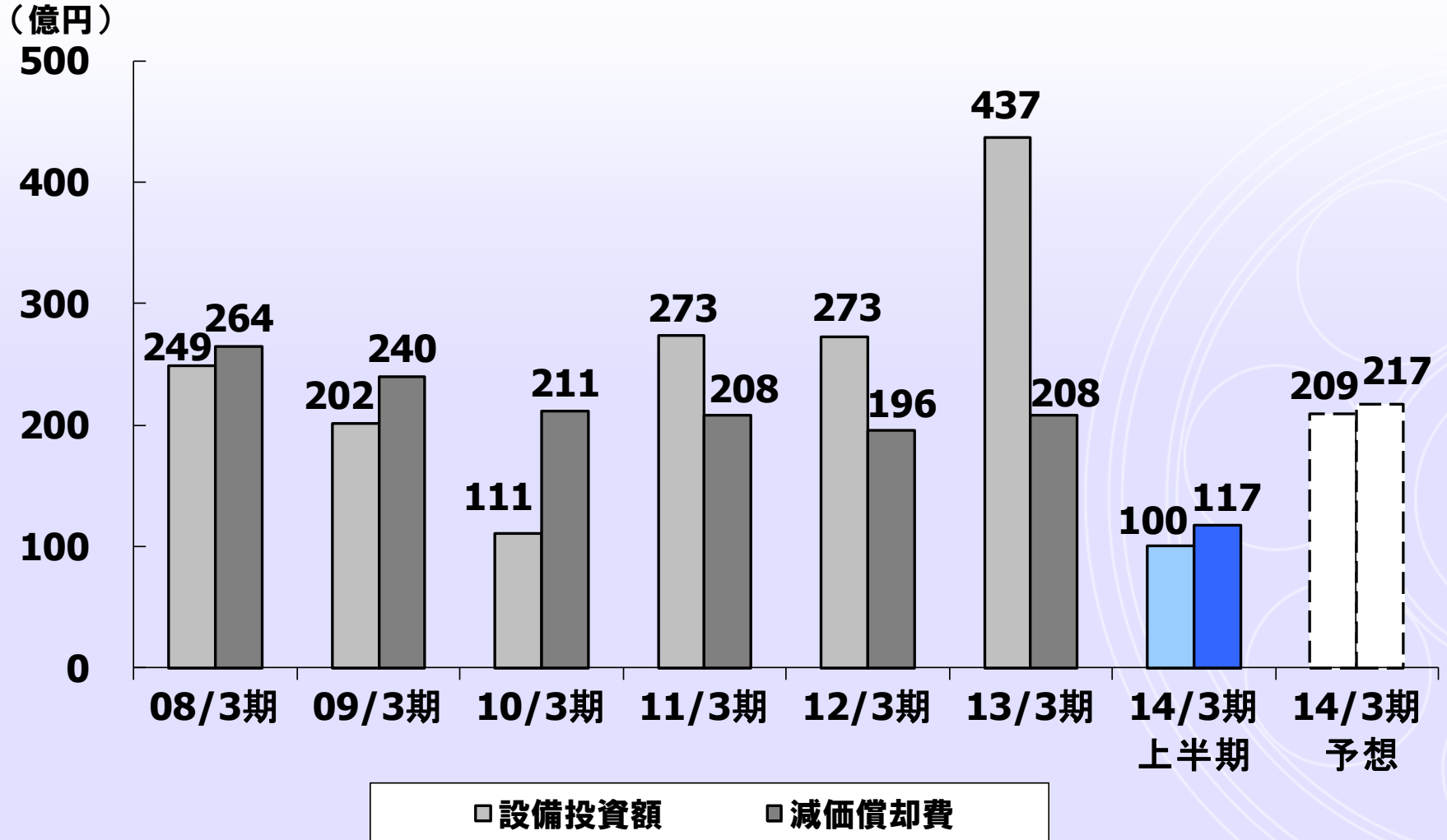


(億円)

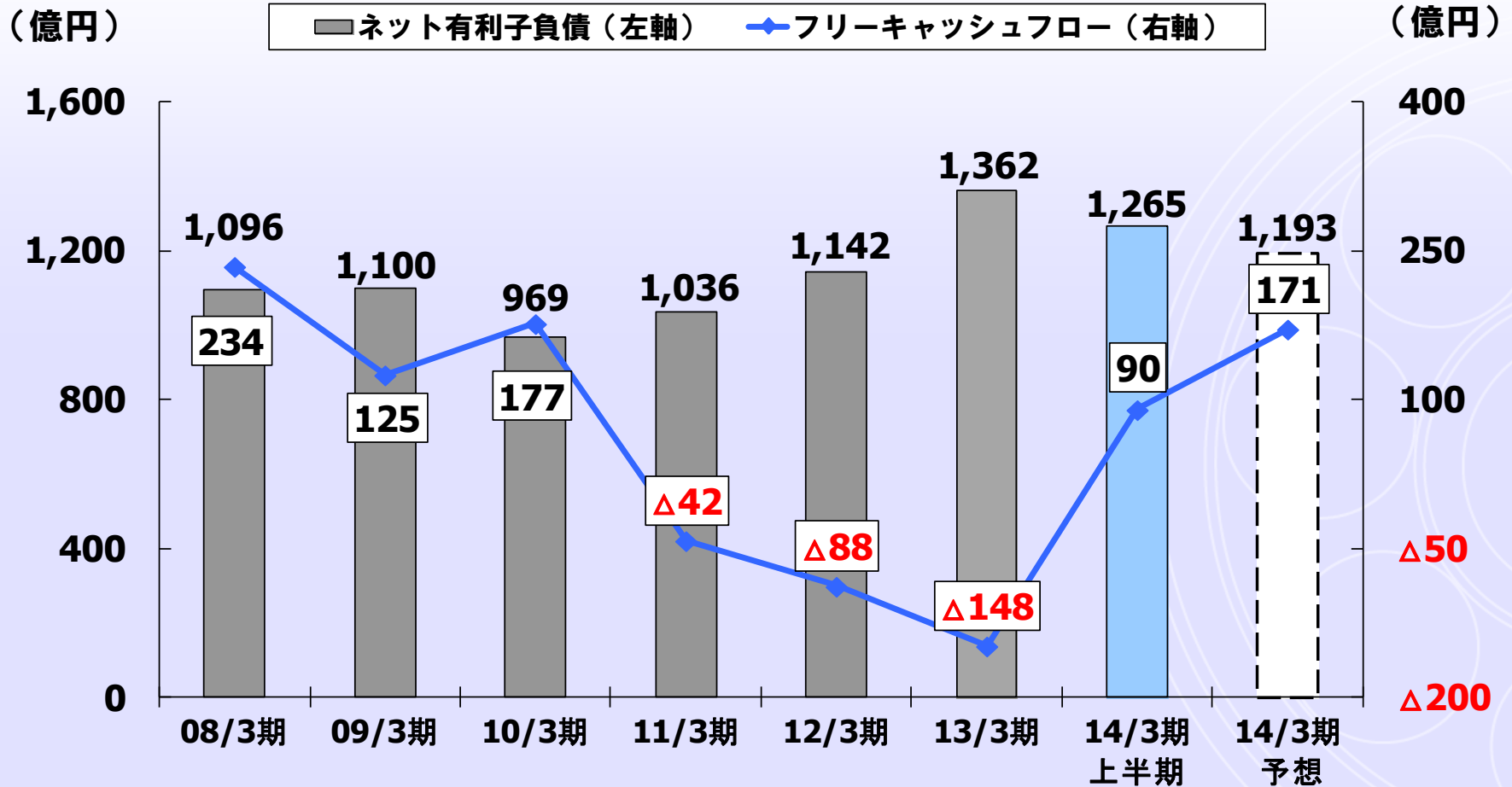


■ 販管費 ◆ 売上高販管費比率





※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。



ネット有利子負債 : 有利子負債合計－現預金
 フリーキャッシュフロー : 営業活動CF＋投資活動CF

上半期の好調な業績を受け、通期予想を再度上方修正 売上高、純利益は過去最高水準へ

(百万円)	2013年3月期		2014年3月期				
	通期	上半期	下半期 修正予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	下半期 期初計画	通期 7月修正計画
売上高	282,409	180,799	179,201	360,000	+27.5%	164,500	343,000
営業利益	10,169	13,003	13,997	27,000	2.7倍	9,200	19,200
経常利益	7,673	11,751	12,749	24,500	3.2倍	7,900	16,700
純利益	1,804	8,772	8,228	17,000	9.4倍	4,700	11,200
一株当たり 純利益(円)	4.83	23.52	22.04	45.56	9.4倍	12.58	30.04

為替レート	13/3期通期	14/3期 上半期	14/3期 下半期想定	14/3期 通期想定
US\$	82.33円	98.03円	100.00円	99.02円
ユーロ	106.48円	128.29円	130.00円	129.15円
タイバーツ	2.67円	3.21円	3.20円	3.21円
人民元	13.08円	15.93円	16.20円	16.07円

14/3期 下半期 期初想定	14/3期 通期 7月想定
90.00円	94.43円
120.00円	124.24円
3.00円	3.13円
14.40円	15.21円

(百万円)	2013年3月期	2014年3月期					
	通期	上半期	下半期 修正予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	下半期 期初計画	通期 7月修正計画
売上高	282,409	180,799	179,201	360,000	+27.5%	164,500	343,000
機械加工品	113,573	68,690	66,710	135,400	+19.2%	62,100	130,100
電子機器	167,911	111,628	111,972	223,600	+33.2%	102,000	212,000
その他	924	480	520	1,000	+8.2%	400	900
営業利益	10,169	13,003	13,997	27,000	2.7倍	9,200	19,200
機械加工品	25,459	15,427	15,373	30,800	+21.0%	12,600	27,400
電子機器	△2,452	3,093	4,007	7,100	N.M.	1,840	3,000
その他	167	402	598	1,000	6.0倍	160	200
調整額	△13,004	△5,919	△5,981	△11,900	-8.5%	△5,400	△11,400

※新セグメントによる2013年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

経営方針と事業戦略について

2013年 11月1日

代表取締役 社長執行役員

貝沼 由久

今期業績予想を大幅上方修正

期初ガイダンス

(百万円)	上半期	通期
売上高	155,500	320,000
営業利益	6,800	16,000
経常利益	5,600	13,500
純利益	3,800	8,500

7月31日上方修正

上半期	通期
178,500	343,000
10,000	19,200
8,800	16,700
6,500	11,200

今回上方修正

上半期実績	通期
180,799	360,000
13,003	27,000
11,751	24,500
8,772	17,000

為替レート	上半期	通期
US\$	90.00円	90.00円
ユーロ	120.00円	120.00円
タイバーツ	3.00円	3.00円
人民元	14.40円	14.40円

上半期	通期
98.86円	94.43円
128.48円	124.24円
3.25円	3.13円
16.02円	15.21円

上半期実績	通期
98.03円	99.02円
128.29円	129.15円
3.21円	3.21円
15.93円	16.07円

今期2Qは過去最高の四半期営業利益を達成

タテとヨコの総合力を駆使して、
徹底した生産性の改善と製造コストの削減

積極的な事業投資の成果

- ボールベアリング新工場（タイ:バンパイン）
- 航空機部品新工場（軽井沢、タイ:ロッブリ）
- LEDバックライト新工場（中国:蘇州、タイ:ロッブリ）
- カンボジア工場

数々の構造改革の成功

〈事業撤退〉

- キーボード
- コアレスタイプ振動モーター
- スピーカー

〈構造改革〉

- 各種モーターの様々な構造改革
- 情報モーターの合併解消など

経営環境の激変

2013年3月期後半の状況

政治的・経済的变化

- 中国市場における日本製品の売上激減
- 対ドルでの大幅な円安(売上増加要因)
対アジア通貨での更に大幅な円安
(製造コスト増加要因)
売上は ▲ 利益は ➡

世界経済の低迷

- 欧州財政問題の長期化と、中国など新興国の成長鈍化
- 成熟国と見られていた米国と日本は景気回復基調で、世界経済を下支え

今期業績予想を大幅上方修正 -経営環境の好転-

2013年3月期後半の状況

政治的・経済的变化

- 中国市場における日本製品の売上激減
- 対ドルでの大幅な円安(売上増加要因)
対アジア通貨での更に大幅な円安
(製造コスト増加要因)
売上は ▲ 利益は ➡

世界経済の低迷

- 欧州財政問題の長期化と、中国など新興国の成長鈍化
- 成熟国と見られていた米国と日本は景気回復基調で、世界経済を下支え

タイ大洪水から完全復帰

2014年3月期前半の状況

政治的・経済的現状

- 中国市場における日本製品の売上回復
- 米国金融緩和縮小予想によって、対ドルでの新興国通貨の落ち着き
- 円安の落ち着き
売上は ▲ 利益も ▲

世界経済はリマンショック前に

- 欧州景気は底打ち
中国の消費者市場は拡大
- 米国と日本は景気拡大局面に
- 世界経済は、「嵐」から「雨」へ回復中

上半期は大幅な業績回復を達成

2Qには、四半期決算として過去最高の営業利益を達成！
全般的な事業実績の底上げが続いている

ボールベアリング

・外販数量増加で高水準の稼働が続く

LEDバックライト

・スマホ向け出荷が順調で、高水準の生産継続
・顧客層の拡大で、より安定的な生産が可能に

モーター

・前期4Qまでのコスト削減と、事業構造改革で
固定費を削減
・各モーターとも製品市場の回復に伴う数量増加
・モーター事業全体で、2Qに完全黒字化達成

カンボジア工場

・生産拡大、生産性向上により黒字化達成
・建設中の第2棟は、年内に完成へ

「5本の矢」戦略

ベアリングの外販 150百万個

ボールベアリングの外販を早期に月平均1億5千万個に引き上げる

複合製品・複合部品の開発と拡販

TRDC(東京研究開発センター)などによる新しい複合製品・複合部品の開発、拡販をおこない、“Electro Mechanics Solutions®”を更に加速する

照明器具関連製品の拡販

電子デバイス部門、技術開発部で開発した街路灯を含む照明器具およびその部品の事業基盤を早期に確立する

計測機器の売上、200億円

計測機器のセンサーとしての機能を再認識した事業戦略に基づき、計測機器関連製品の売上を早期に年間200億円程度に引き上げる

航空機部品事業の売上、収益拡大

NHBBを中心としたロッドエンド事業などの航空機部品事業のグローバル・プレゼンスを生かしたシナジー効果の最大化により、航空機部品事業の売上、利益の大幅拡大を図る

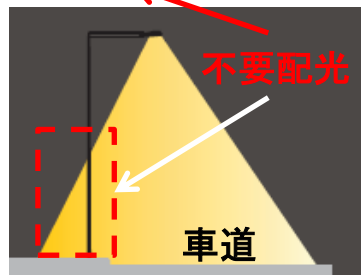
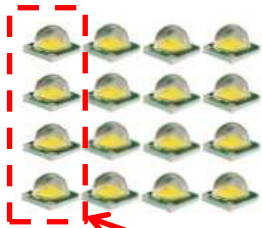
開発したLED照明器具および部品の拡販

特殊配光制御レンズによる省エネ効果

約30%向上

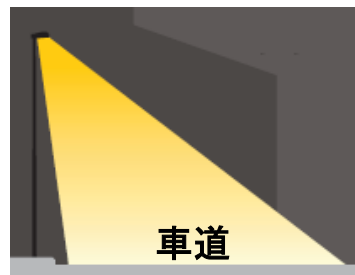
従来型街路灯

削減可能

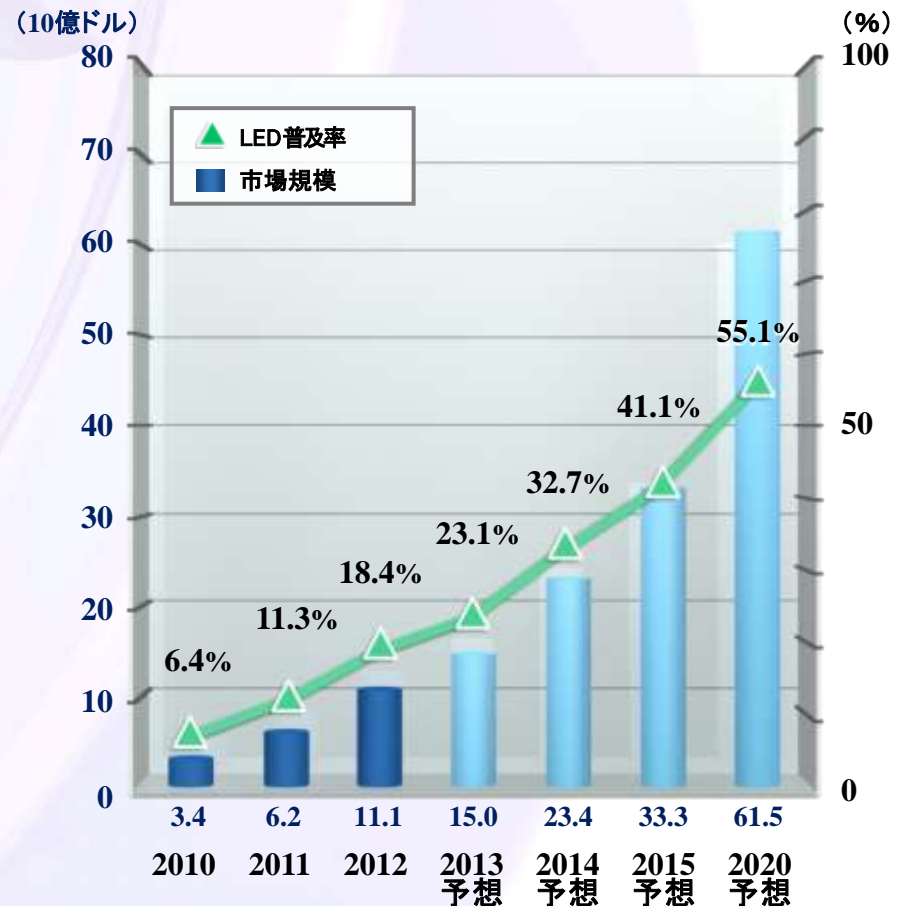


スマートシティ型
街路灯

マイクロプリズムによる制御
・歩道、住宅方向の光を
カット
・車道を効率よく照射



LED照明の市場予測(全世界)



(出典: 富士経済 2013年2月)

計測機器

これまでの単なるハカリではなく、センサーとしての機能を訴求
 ➡ 新規開発分野の大きな可能性

介護ベッド

所在確認

ベッドに人が寝ているかどうかを検出

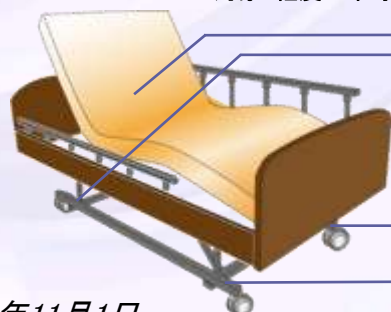
床ずれ防止

荷重分布を測定し、自動的に寝返り

■ 自動体位変換 約1時間/サイクル



対象：軽度～中等度リスク保有者



ロードセル

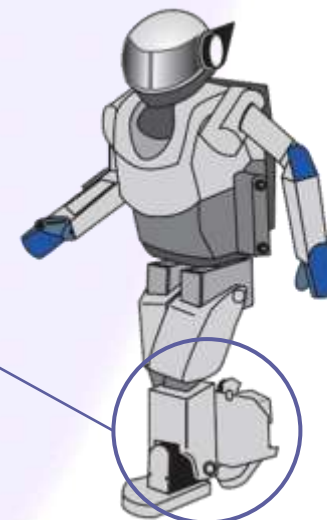


ロボット

ロボットの歩行姿勢制御

- 6軸センサーで足裏の荷重分布 = バランスを測定(二足歩行)
- 小型化、耐久回数、耐過負荷が必要

6軸センサー



「5本の矢」に繋げる来期の成長ドライバー

①LEDバックライト

+200億円売上

②複合製品

+100億円

③航空機部品

+30億円

④ターボチャージャー用
ベアリングユニット

+10億円

来期売上高4,000億円が視野に入った

当面の成長ドライバー①

LEDバックライトの急激な売上成長

スマホ向け需要が拡大中

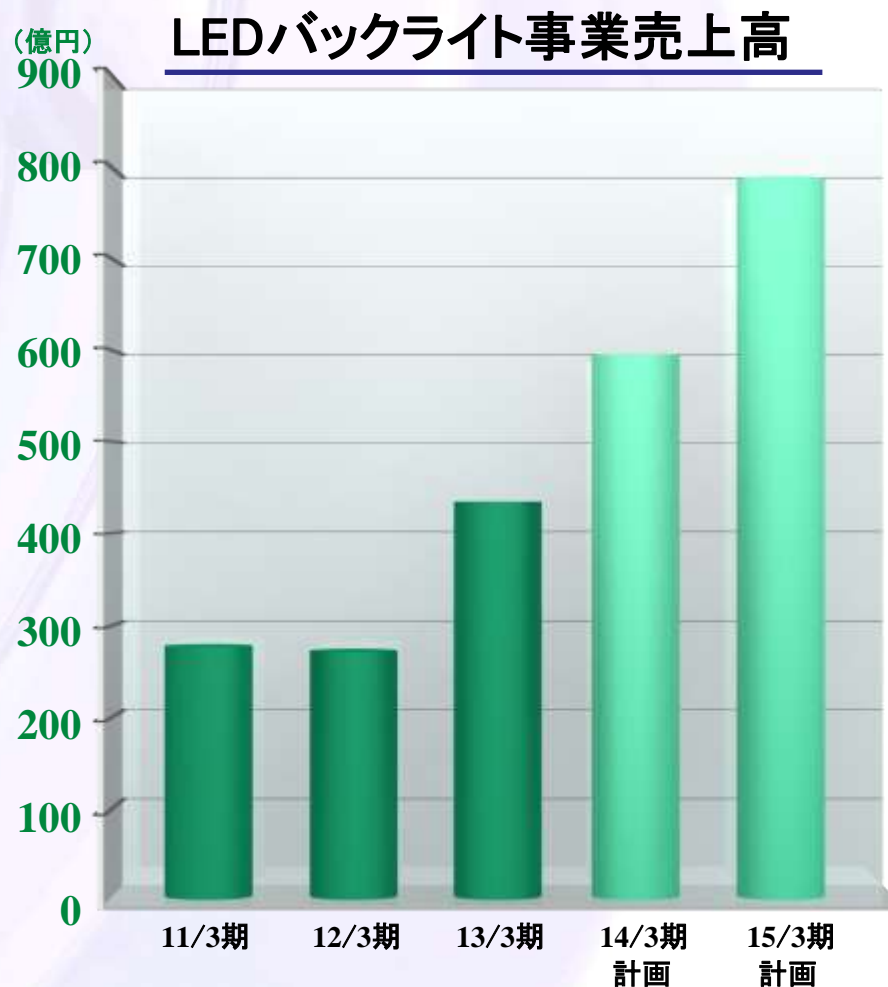
- ・スマホの世界普及台数は2012年の約15億台から、2017年には43億台へ拡大との見方
- ・売上は毎月拡大中で、下半期も好調続く

競争力、収益力の更なる強化

- ・導光板の薄型化を追求
→ 製造技術で圧倒的な競争優位性を維持
- ・更なる収益力の強化を図るため、
 - ①生産平準化へ向け顧客層を拡大、
 - ②KJPretech社との提携の有効活用、
 - ③半自動機導入やカンボジア生産拡大による人件費削減を行なう

シェア上昇を受け、生産能力拡大

来期の生産能力は、カンボジア拡張と西岑新設を中心に、1.5倍へ拡大



当面の成長ドライバー②

複合製品売上は、成長期入り

新たな複合製品開発を加速させる

今年新設のTRDC(東京研究開発センター)で、
お客様のご要望に合わせて、「技術の組合せ」をコーディネートする

お客様のご要望

技術1 + 技術2

TRDC技術

新しいアイデア

ミネベアの自社技術

- ・超精密機械加工技術
- ・モータ技術
- ・電子技術
- ・計測技術
- ・製造技術
- ・解析技術
- ・複合化技術
- ・周辺技術

複合製品

当面の成長ドライバー③

航空機部品の拡大

世界の航空機生産は 中期的に増加が続く

- ・従来機種の安定した生産に加え、省エネ型新型機(A350XWB、A320Neo、Boeing737MAXなど)の量産や部品調達が実質スタート
- ・LCC興隆による航空機受注額の大型化

生産体制の強化

- ・好調な受注を受けて、タイ・ロブリー工場での生産能力を拡張し、日本・米国・英国工場からの製造移管を推進中

ボーイング・エアバス民間航空機出荷機数推移



(出所:ボーイング、エアバス、予測はミネベア)

当面の成長ドライバー④

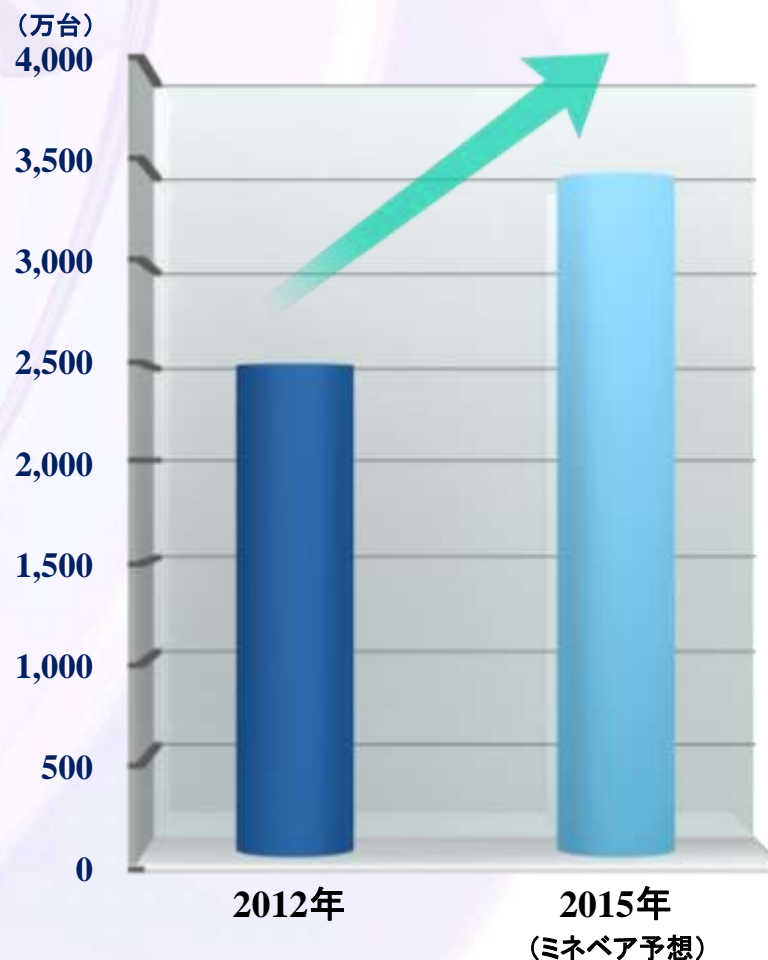
ターボチャージャー用ベアリングユニットが立ち上がる

メリット：省エネ・高耐熱性

- 省エネ効果の高い、ターボチャージャー向け「高耐熱性ボールベアリングユニット」が、複数の大手メーカーに採用され、生産を開始
- 関連ベアリング製品を含めて、16/3期売上高50億円を目指す



ターボチャージャー搭載の世界新車台数



トピックス: セラミックベアリングの航空宇宙産業への展開

セロベア社

セラミックベアリングの先進的技術

NHBB (ミネベア米国子会社)

ベアリング関連航空機部品
での高いシェア

シナジー最大化を目指す

セラミックの性能
(軽量性、耐熱性、耐久性)
を生かした製品開発

- ・軽量化による燃料消費削減
- ・耐久性向上による保守コスト削減



ギアボックスアクセサリ
向けハイブリッドベアリング

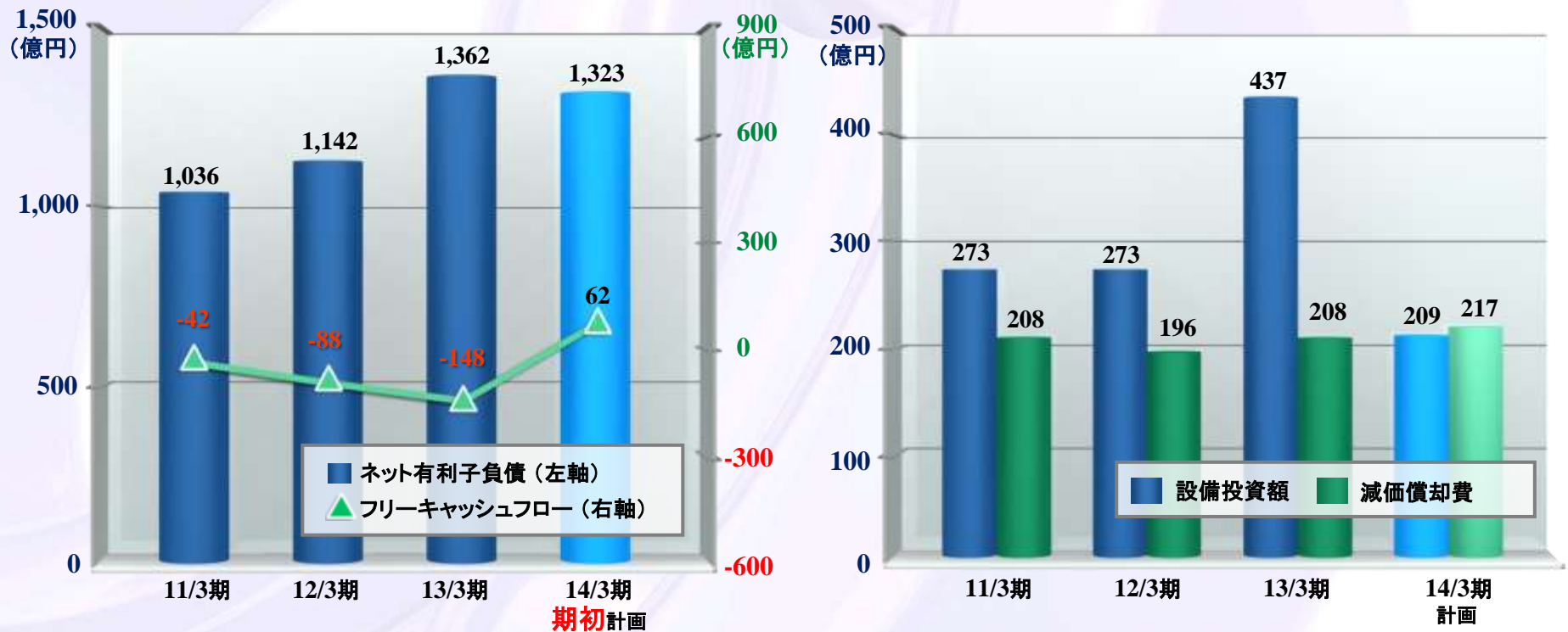
NHBBの主要顧客はセラミック
技術への高い関心を示す

航空機/ヘリコプターの
エンジン・ギアボックス向け
ベアリングへ応用

更なる競争優位性を確立へ

バランスシートの改善

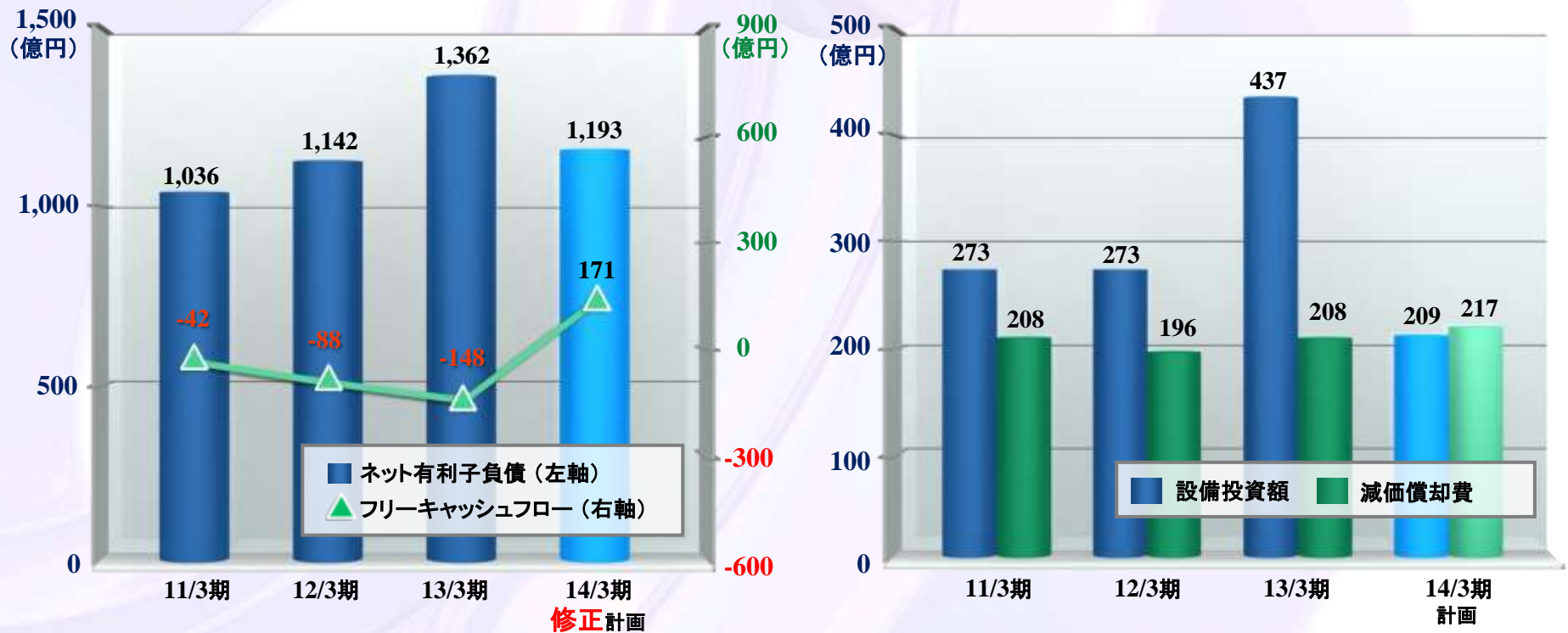
キャッシュフロー改善が進み、ネットD/Eレシオは0.85に回復



ネット有利子負債 : 有利子負債合計－現金預金
フリーキャッシュフロー : 営業活動CF＋投資活動CF

バランスシートの改善

キャッシュフロー改善が進み、ネットD/Eレシオは0.85に回復



ネット有利子負債 : 有利子負債合計－現預金
フリーキャッシュフロー : 営業活動CF＋投資活動CF

修正計画

計画

M&Aとアライアンス戦略

急激な円安に鑑み、
大規模M&Aには当面慎重に対応する

中小規模のM&Aを含む、
機械加工品事業の強化を最優先で行う

- 機械加工品事業分野での様々なアライアンスも強化していく
- それ以外の事業分野でも、必要に応じて事業強化の手段としてM&Aとアライアンスを活用していく

配当方針

配当

14/3期 中間配当 **3**円/株

14/3期 予想期末配当 **4**円/株

計年**7**円/株

配当方針

「当社は、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分を維持しながら、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元をはかることを基本方針といたします。」

ミネベア株式会社 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。